

“鮮度一番！”

No.198

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1 / ひとことコラム
- 1～3 / 運営委員会で話されたこと
- 4 / お知らせ 編集後記

・・・ひとことコラム・・・

40年ぶりに京都に行きました

丸山静江

改札口を出て目にした京都タワー。あー変わってないと言言。

清酒久保田の取扱店の中から選ばれて、久保田塾で勉強をした者の集まりです。会場は持ち回り。今年が京都でした。1時半から5時半までみっちり勉強会。

懇親会には、塾卒業生しか売れない酒「呼友」で乾杯。舞妓さん2人と三味線の姉さんの3人で舞の後で各テーブルを回って頂きました。男性会員は舞妓さんとのツーショットの写真を撮りたがり大変でした。舞妓さんは地元の人は大変さが分かり、なり手がいなくて県外の人達だそうです。今回の2人は静岡と熊本でした。

朝食後解散でしたので、仲の良い4人で連泊して観光。神社仏閣はさすが大きくて「京都」と思いましたが町並みは京都らしさが薄れて、少し失望。高校の修学旅行を皮切りに、独身時代は毎年行っていました。午前は紹介された老舗の帯問屋の見学。染料だけで一千万円の帯もありました。干菓子を頂きながら、和服の講釈。紋様には意味があり、調査中だそうです。午後、観光タクシーを利用して清水寺・銀閣寺・平安神宮・伏見稲荷・・・貸し出しの着物を身に着けて、甲高い声の中国人の集団に違和感がありました。

西本願寺と東本願寺の違いを西の若い坊さんに聞きましたら、同じだそうです。西は豊臣秀吉、東は徳川家康に可愛がられ兄弟で袂を分けただけの違いと言われました。

2時半に京都を出て、7時に三条に戻りました。近さを体験したら、また行きたくくなりました。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成27年10月7日(水) (AM9:30～11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

秋の夜長、皆様はどんなふうにご過ごしていますか？もし、文章を書くことが嫌でなかったら、皆様の悲喜こもごもを会報へお寄せください。お待ちしております～。

次回の運営委員会は、第2水曜日11月11日(水)9:30～男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

第34回高齢社会をよくする女性の会 全国大会 in 長岡 大介護時代を地域で生きる～安心と覚悟～

田辺とも子

9月26日、27日長岡駅前のアオーレ長岡に行ってきました。屋根付き広場には何度か行ったことがありましたが、屋内施設は初めてで、駅から直行できるアクセス抜群の利便性に嬉しくなりました。

晴れ女という樋口恵子さんを表すように午前中の雨も上がり、「大介護時代を地域で生きる～安心と覚悟～」の大会テーマと樋口さんの姿を見るなり、すでに今日の目的が達成されたように感じました。

初日の記念講演は、厚生労働事務次官の村木厚子さんが「超高齢社会をどう生きる？」と題し少子化がもたらす労働力の推移、介護保険制度の現状と今後を表で示し、20年先を見据えた保健医療システム「2035、日本は健康先進国へ」と進みました。これまでの保健医療の考え方を大きく変える内容で「質の改善、患者の価値中心、行政による規制ではなく当事者による規律、治療中心からケア中心に」などを解説され、最後は高齢者の雇用と就労の現状、これからの「生涯現役社会」の実現に向けた国の対策を説明されました。

2日目は、分科会「女性が創る元気な地方」パネルディスカッション「地域力×女性力＝少子高齢社会の活力」に参加。樋口さんが示した自治体の若年女性の人口減少率と、女性議員数との比率の表に驚きました。明らかに女性議員の少ない自治体は、若年女性の人口減少率が顕著なのです。「女性がいかに安らかに息づかいてきているか、女性がのびのび発言できているか」それが問題なのだという言葉に納得しました。

私自身の20年後を想像しながらの2日間、自営業の我が家は、生涯現役当たり前、健康あってこそその安心という状況、とはいえ、環境変化に応じた覚悟の度合いを高めていかねばと思いました。「私たちは大きな転換点にいる。その中で自分は何ができるかを考え行動しよう。」の総括が清しく胸に響き、9月の中秋、スーパームーンの良夜となりました。

野崎ミチコ

9月26日（土）27日（日）第34回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 長岡へは、北は北海道から南は沖縄まで全国津々浦々から参集した。

初日、50歳でこの会を設立し、77歳の時に心臓を止めて、人工心肺で血液を流して大動脈瘤を取る大手術を経験した83歳の理事長樋口恵子さんが、「病気になっても、元気であればいい。夢を持つこと。見果てぬ夢を追い続けることこそ、高齢者の特権」「長寿は、平和と一定の豊かさのおかげである」と挨拶をされた。

記念講演では、10月1日付で事務次官を退任される村木厚子さんが、「超高齢社会をどう生きる？」と題した58ページにわたるレジメを基に「少子化の進行と人口減少社会の到来」と「介護保険制度の現状」から介護等についての未来像をピンポイントで話された。その中では、「地域包括ケアシステムの構築」の重要性を強調された。

その後、村木厚子さん、森民夫長岡市長、樋口恵子さん、三人による鼎談が行われた。歯切れの良い樋口さんのふりて村木さんが語った私生活は、あの超多忙な労働省で2児の母として働き、子育て中に1か月の海外出張も経験したとのこと。村木さん曰く「子育ては、関心は持つが監視はしない。親はなくても子は育つ。信頼できる大人がいることが大切」と話された。村木さんの柔らかな語り口と輝く笑顔から、5か月にわたる無実の勾留さえ凜として乗り越えることの出来た女性の芯の強さを感じた。

西方久子

大会の2日目は、アオーレ長岡を会場に6つの分科会が行われた。

私は、一番人気の第1分科会シンポジウム『自分らしい旅立ち』＜テーマ＞「最期の日まで自分らしく生きる」に参加した。

副理事長 沖藤典子さんをコーディネーターに、①在宅介護26年間で実母を看取った山上洋子さん（株式会社ホームグ代表取締役社長）②在宅医療における終末期の実態を本田雅浩さん（ほんだファミリークリニック院長）③僧侶の立場から末期がんの患者とその家族に寄り添っている森田敬史さん（長岡西病院常勤ピハール僧）3人から高齢社会の実態や介護経験談を聞き、自分や家族のこれからの生き方・

旅立ちを考える良い時間となった。

自分の死を納得して旅立つためには、「平穩の生き方の先に平穩な死がある」ことや、在宅での介護や看取りを勧められたが、病気の苦痛・家族不安や負担・主治医（家庭医）など問題は数多く現実には難しい。

私がこれからやるべきことは、自分のワガママ（老後どうありたいか？）を家族にきちんと伝えること（エンディングノートも）と思い、即実行！！

すると介護職の息子は話の最後に、介護で一番嫌われる人は、口うるさい太った女性だ！と言い放つ。残念なことに、まさに私のことである。（笑）

もうすぐ高齢者となる私には、1.健康寿命と介護のためにダイエット 2.断捨離（仕事関係の本・着られない服）することが、自分らしい旅立ちの準備となるだろう。（きびしいなあ）

安室久恵

第2日 第2分科会 9月27日(日) 9:30~11:00 (まちなかキャンパス)

認知症とともに生きる「社会の中で認知症の人が生きていくということ」

コーディネーターは袖井孝子さん（高齢社会をよくする女性の会副理事長）。シンポジストは金子裕美子さん（認知症の人と家族の会新潟県支部代表）、森田昌宏さん（精神科医師、三島病院認知症疾患医療センター長）、大澤理尋（みちひろ）さん（弁護士・社会福祉士）の3人。それぞれの立場で認知症に対してどう向き合うかを話していただいた。

10年後には高齢者の5人に1人が認知症といわれる。認知症が問題視されるのは、介護の困難さと、事件事故に遭うことがあるから。そして社会的にも負担が大きくなることだろう。高齢者が徘徊の末列車にはねられて死亡した事故で遺族に損害賠償を請求された件は、家族の責任とされたが介護の現実を見ていないと思う。

これまでは介護する立場で考えたが、これからは私自身が認知症になった時どう生きたいかを考えなければならないのだ。認知症は誰でもがなる。普通の人として人生を楽しむことができればと、認知症患者自身が声を上げはじめている。病気としての認知症そのものの理解を深め、患者に対して周囲がどう対応するか、社会全体で制度を作る、支援することが急務とされる。孤立しない、孤立させない。慣れ親しんだ地域で生きていくことができるように考えていかなければと改めて思った。

2. 20周年記念研修について

11月3日、4日に行う20周年記念研修ですが、参加申し込みが会員の皆様からなく（；_；）、田辺、西方、安室、野崎の4名で行く事になりました。

研修の行き先ですが、3日は、JICA 横浜 海外移住資料館で開かれるアジア女性資料センター主催のフィールドワーク・ツアー「『戦後70年』をきっかけにたどる女性たちの生きた軌跡」に参加します。そしてそのまま横浜でお泊り。

翌4日は、国会議事堂と三菱1号館美術館プラド美術館展を見学することになりました。はてさて、女4人旅どんなこととなりますやら報告をお待ちください。

※フィールドワーク（英: field work）は、ある調査対象について学術研究をする際に、そのテーマに即した場所（現地）を実際に訪れ、その対象を直接観察し、関係者には聞き取り調査やアンケート調査を行い、そして現地での史料・資料の採取を行うなど、学術的に客観的な成果を挙げるための調査技法である。

3. 三条女性会議研修会&新年会について

今年度の研修会には、是非“脳かつ”をとの意見があり、来て下さる講師との日程調整をして、日時を決めることになりました。

だいたいの予定では、来年1月の土曜日、男女共同参画センターで“脳かつ”研修を行い、その後、近くのお店で新年会を考えています。ためになり、尚且つ大笑いできる研修ですので、皆様必ずおいでくださいませ。

【お知らせ】

アルザフォーラム 2015

新潟市男女共同参画推進条例の理念に沿って、男女が互いの人権を尊重し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指す市民参加型のイベントです。

※詳細は、ホームページで「アルザフォーラム 2015」と検索してください。

◆新潟ウイメンズ企画ファイナル講座

ウーマン・リブから“ポスト”フェミニズムへ

～女性主体の「声の場」に臨床的まなざしを向けて～

★日 時：2015年11月7日(土)午後1:30～3:30

★会 場：アルザにいがた(新潟市男女共同参画推進センター)
中央区東万代町 万代市民会館3階(TEL025-246-7713)

★講 師：金井淑子さん(前 立正大学) ★参加費：500円

★申 込：FAXまたはハガキで 氏名、住所、電話番号を明記して

〒950-2022 新潟市西区小針5-14-5 倉元正子 FAX 025-267-5474

★締切り

10月31日(土)

◆アルザフォーラム 2015 基調講演

いま
現在を生きよう ～文壇最強パパが贈るメッセージ～

★日 時：2015年11月15日(日)午後1:30～3:30

★会 場：万代市民会館6階 多目的ホール

★講 師：鈴木光司さん(作家・著書「リング」「らせん」など)

★定 員：280人(応募多数の場合抽選) ★入場料：無料

★申 込：10月14日～11月8日に市役所コールセンター

TEL025-243-4894(8:00～21:00)

★保育

15人

(6か月以上未就学児)

協力費1人500円

◆祝・9周年!劇団blueジェーンズ演劇

女たちのラストメモリー

～青空よ ネオン深き夜を放て～戦後70年、改めて戦争について…

★日 時：2015年11月21日(土) ★会 場：万代市民会館6階 多目的ホール

★参加費：無料 当日直接会場へ!

★3回公演：①午前11:00～12:30

②午後 3:00～ 4:30

③午後 6:00～ 7:30

★保 育：15人(6ヶ月以上未就学児・協力費1人500円)

★保育申込：アルザフォーラム 2015 実行委員会事務局 TEL 025-246-7713

※開場時間はそれぞれ

開始30分前より

編集後記：

ちょこっと顔を見ない日が続いた孫が、ハイハイがとっても上手になっていたり、伝い歩きが…、食欲が…、あれもこれも…、会えた喜びよりも自分の老いを感じ、陰でこっそりため息をひとつ。感傷的な秋のせいばかりではないのかもしれませんが。前向きに前向きにと自分に言い聞かせながら仕上げた鮮度一番198号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>